

Introduction

Fun Activity Books は、英語を初めて学ぶ4・5歳の子どもたちのための楽しい入門書です。このコースでは、数・色・動物・食べ物・動詞・教室にあるもの・あいさつ・先生から出される指示などを教えます。子どもたちは母語としてはすでによく知っている言葉の数々を英語では何というかを、色塗りやタスクに取り組みながら学びます。実習の方法やアクティビティーの応用については、この教師用指導書で詳しく説明します。

テキストは **20** ユニットからなり、1ユニットは **45** 分ぐらいで終わるようにデザインされていますが、1レッスンにかかる時間は、クラスの人数や子どもたちの能力によります。各ユニットには平均 **14** の基本的なアクティビティーが紹介されています。教師はこの通りにする必要はなく、変えてみるのも、この指導書で紹介している **Optional Activities**の中から選んでやってみるのもいいでしょう。これも先生次第で、またクラスの人数や子どもたちの能力次第で柔軟に変えてもいいでしょう。

この教師用指導書には、新出語、その中でも特にだいたい必要な必須学習語、各ユニットに必要な教材などの授業準備、教室活動で教師が必然的に使う言葉（生徒にとっては、習わないけれども聞いて理解する言葉）などが左上の四角の中に書いてあります。また、教師がどれを選ぼうかとわくわくするようなアイデアに満ちあふれたゲームやアクティビティーや歌が満載されています。また幼い子どもたちを教えるために役立つ情報や **FAB** を最大限に効果的に使う方法も紹介しています。

活発な授業展開ときめ細かい指導をするためには、**The Song Tape** と **Student's Playing Card** の併用をお勧めします。

Using the Student's Book

FAB Red Student's Book は **20** のユニットからなり、1ユニットはカラフルな見開き2ページ分です。各ユニットには子どもたちがレッスンで取り組むタスクが数種類あります。タスクは各ユニットの左側か右側にアイコンで表示されています。色鉛筆で色を塗ったり、シールをはったり、絵を描いたり、歌をうたったりします。

全ユニットはすべて同じ構成で、一番上に書かれている数字(**head number** と呼びます)と、大きくてカラフルなイラストでできています。子どもたちは、まずこの数を習い覚えていきます。そしてイラストを使って様々な方法で英語を学びます。

20 のユニットは4つのテーマに分かれています。子どもたち・教室にある物・食べ物・動物です。それが4つの場面で描かれています。家の庭・遊びのために作られた樹上の家・運動場・海岸です。イラストは教師が様々な方法で使えるようにデザインされています。英語力はアクティビティーをやることで増強されていきますが(例：塗り絵)、イラストには

テキストの後のほうで学ぶ単語の絵や、くりかえし使われる単語の絵も描かれています。イラストを授業準備の際に、また生徒の復習に使われてもいいでしょう。生まれてはじめて外国語を学ぶ子どもたちを前にすると、このイラストを見ながら先生としては当然もっと色々なことを教えたくなるでしょう。イラストには色々な物が描かれています。イラストの場所について話したり、描かれている色々なものを指し示して、例えば、庭の絵の背景に描かれているお城には誰が住んでいるんだろう、と子どもたちの想像をかきたてたり。

また、各ユニットに登場してくる人や動物に名前をつけてお話をつくり、子どもたちに彼等はどこで何をしているのかとかを説明させたりしてもいいでしょう。

FAB Red で1から10までは学習しましたから、11から20まで学びます。数によって色が決められていて（1は赤、2は黄色、というふうに）、テキストの終りまでこのルールは変わりません。

11から20までの色の順番は、各ユニットの上の方にデザインされた数字チャートで繰り返されます。また右下にユニット番号が丸の中に点線で描いてありますが、これは子どもたちが数に対応する色で点線をトレースするようにしてあるのです。

各ユニットの左下に、色の名前と点描画がありますが、これは単語の意味を知り、トレーシングや色塗りをするタスクで使います。ユニット1から10までは、ルール通りに数字に対応する色と点描画が書いてあります。ユニット11から20までは、色の名前は無作為の順に出ていますが、何色を使うか子どもたちが気づかなければなりません。**FAB Red** と違って、このテキストでは子どもたちがどの色を使いたいのかを決めるように工夫されています。

ユニットによっては、子どもたちが数をかぞえるために描かれた物があります。例えば、ユニット2には10羽の小鳥が、ユニット5には2人の少年が描かれています。

なお、このテキストには3種類のシールがついています。ユニット16とユニット20では、シールを貼って学習します。ユニット11から20までもシールを使いますが、詳しくはこの指導書で説明しています。また3枚の**FAB**のシールがありますが、これは特別に良く出来た時のご褒美としてお使いください。

Teaching Young Children

幼い子どもたちを教えた経験がある先生は、レッスンの中身はもとより、どんなペースで教えるかということがいかに重要であるかももちろんご存知ですが、未経験の先生にぜひご理解いただきたいことがあります。

この年齢の幼い子どもたちにも、能力には個人差があります。この**Fun Activity Book**のアクティビティーをいかに上手にこなすかは、子どもの知的能力と運動能力によって大きな

違いがあります。4・5歳児のほとんどの子どもは色を塗ったり、点を線で結んだりすることには慣れていますが、何に色を塗らなければならないかは、はっきり分かるようになっていきますし、イラストもクレヨンや色鉛筆で色を塗るには十分な大きさにデザインされています。

レッスンは楽しくて活発なものでなければなりません。子どもたちが楽しんでいれば、よく分かり覚えもよく自然に英語を理解するようになるものです。このコースを進めていくうちに、子どもたちは新しいものを休みなく貪欲に吸収しながら、それを理解し知識として定着させていきます。

子どもたちは敏感に教師の機嫌を察知して反応します。そのため、快活で熱心な先生の授業はうまく展開し、当然人気があります。

繰り返すことはとても大事なことです。始終英語を聞いて英語に触れ、また何度も復唱することで、子どもたちは英語を自分のものにしていき、実際に早く使えるようになります。またレッスンで先生が必然的に使う教室用語などを繰り返し聞くことも、大事なことです。この段階ではまだ子どもたちは学んでいないし自分では使えない言葉も、いずれ将来それを見聞きする時のための予習として大変効果的です。子どもたちは繰り返しによって英語を覚え、使えるようになります。そのため、このコースでは何度も同じ歌やアクティビティーが出てきます。色々なカードゲームやアクティビティーに同じ言葉が何度も出てきて使われますが、使い方にはその都度違いを持たせてあります。

子どもたちは先生が言う通りに真似をして、同じ言葉を繰り返すことで英語を覚えていきます。先生は、適切な身振りやジェスチャーや **playing cards** を使うことで言葉の明確な意味を分からせます。幼い子どもたちに完璧な発音を期待するのは無理ですが、先生は必須学習語を教えようとする時には、はっきりときれいに発音しなければなりません。この年齢で外国語を学び始める基本目的は、良い発音を習慣づけることだからです。

子どもたちは新しいことを学んだり、復習したり、同じ言葉を繰り返して言おうとする時に、よく間違えるものです。年齢を問わず、外国語の良い発音を身につけるのは難しいものです。発音を間違えたら、正しく発音してみせるだけでいいでしょう。子どもは先生の発音する通りに真似をし、時と共に無意識のうちに自分で正しい発音を身につけていきます。

Attention Span

幼い子どもたちはアクティビティーに長い時間集中できません。1つのアクティビティーにせいぜい数分です。子どもたちがそわそわして落ちつかなくなったら、長引かせても無駄でしょう。ペースを変えたり、別のアクティビティーをしたりすると、子どもたちの興

味をひきます。後でまた、先ほど中断したアクティビティーをやればいいのです。

こういう理由で **FAB** のアクティビティーは短時間でできるものばかりです。子どもたちが新しい言葉を覚えるのに集中しなければならないアクティビティーは、楽しいアクティビティーと歌をミックスして変化を持たせています。全ユニットには、歌・テキストを使っ
てのレッスン・新出語の学習・復習・アクティビティーがバランスよく配置してあります。

Routine

子どもたちは、レッスンのやり方をいったんきちんと習慣づけると見事にこなすようになります。はじめの頃は、一つのアクティビティーから次に移る時の説明を聞いても混乱するかもしれませんが、レッスンのやり方が一度きちんと確立してしまえば、アクティビティーの切り換えがかなりスムーズにできるようになり、そのため、より英語に集中できるようになります。この教師用指導書では、この点をしっかりと念頭に入れていただくよう解説しています。

Praise and Rewards

先生は子どもが正しく答えたり、指示通りに動いた時には、ちゃんと評価し誉めてご褒美をあげるべきです。正しいとはっきり認めてもらうことで、子どもたちは自分の答えや動作に自信を持つようになります。はっきり認めてもらって、ちゃんと評価し誉めてあげなければ、子どもたちには自分がしたことや答えたことが正しいのか間違っているかの区別が付きません。

評価してあげるには、**Yes, Very good, Good boy/girl** と言いながら、拍手をしたり、親指を立てたり、笑いかけてあげたり、力強くうなずいてみせます。

ご褒美としては、ゲームやアクティビティーではその子を一番はじめにやらせたり、テープレコーダーのスイッチを入れたり止めたりという大事な仕事をする名誉を授けます。お菓子やシールをあげるという方法もあります。

先生は誉める時には誉めること、そしてレッスン中に子どもたち全員が誉められるように、気配りの徹底をしなければなりません。もし子どもの答えがちょっと違っていたら、正しい答えのヒントを出したり身振りでやって見せたりして、正しい答えを引き出します。そして正しく答えられたら、たっぷり誉めてあげましょう。

Classroom Management

テキスト学習の時には着席をしますが、レッスンのほとんどはテーブルやイスから離れて行います。もしできるなら、テーブルは壁に押しつけて、アクティビティーをするために、真ん中に大きなスペースを作ったほうがいいでしょう。子どもたちにとってはイスに座る

より床に座るほうがはるかに自然で、動作もスムーズになります。

もしスペースに余裕があるなら、アクティビティーによっては、教室内の他の場所へ子どもたちを連れていきます。そこで、子どもたち全員をくっつけて小さくまとめれば、注意力の散乱をできるだけ防ぎ、おとなしくさせることもできます（後述の **Discipline** をご参照）。

また常に、テーブルの角や傾いたイスなど危険なものに注意をしてください。

Discipline

レッスン中の子どもたちがとる態度について、どこまで許しどこからは許さないようにしたいのでしょうか。はじめて教室に来た子どもも、外国人の先生に習うのがはじめての子どももいます。生命力たくましい幼い子どもたちが何人か集まったら、騒ぎ出したらやかましくて手に負えなくなることは容易に想像できます。ですから、レッスンは子どものそういうエネルギーを英語を学ぶエネルギーにきりかえるようデザインされています。いわゆる問題児はどのクラスにもいます。こういう状況で、できるだけスムーズに授業を行うには：

できるだけ早く子どもたちの名前を覚えて、名前を呼ぶようにすることが必須です。名前を呼んでもらった子は、よりよく反応するようです。誉める時にも叱る時にも名前を呼びます。でも厳しく叱りつけることは絶対にやめてください。アクティビティーを変えるか、その子をじっと睨んで、**No!** と何度か繰り返して行ってください。子どもたちは子どもたちで先生を試そうとしますから、第一回目のレッスンで子どもたちにやってもいい事といけない事の区別をつけさせるのはとても大事なことです。

一触即発でけんかをしそうな仲が悪い子どもたち同士は、できるだけ離しておきましょう。しかし先生はなるべくこの子たちのそばにいます。着席している時は簡単ですが、着席していない時は距離をおかせます。一つの方法としては、いつ暴れ出すか分からないほうの子の手をつないで離さないことです。

教室のあるコーナーを“ペナルティーボックス”として指定するのもいいでしょう。いうことをきかない子どもはそこに行かされます。授業に戻ってもいいといわれるまで、何分間がそこにいなければなりません。年長の子どもたちなら、**Yellow card / Red card** が効果的かもしれません。1回目 2回目までは **yellow card** を出しますが、それでもやめなかったら **red card** です。**red card** を出されたら、教室から出され5分間は戻ってはいけないと警告しておきます。

教室の隅を使うこともできます。教室の隅に子どもたちを小さくまとめて床に座らせるか、うずくませます。先生は、教室の隅にこちらを向いてかたまって座った子どもたちと向かいあう形になります。必要ならいつでも両腕を広げて、勝手に飛び出そうとする子ども

を制止することができます。

Whiteboard Use

子どもたちが座った位置からホワイトボードがちゃんと見えるかどうか確認してください。

絵を描くアクティビティーやテキスト学習で使う時には、絵は大きくはっきりと描いてください。また、**Rub Out** や **Draw a...** のようなリレーゲームにもホワイトボードを使います。この場合、子どもたちの手がちゃんと届くようホワイトボードの下の方に描いてください。

Other points to consider

子どもたちには、毎回色の揃った色鉛筆をちゃんとけずったものか、クレヨンを教室に持ってくるように指導します。これで先生は無駄な時間を使わずにすみませし、授業がスムーズに展開していくことになります。

先生が名前と年齢を書いたバッジを作って配ったら、毎回それをつけてくるようにご父兄にお願いをしておいてください。

いつもできることではないのですが、しゃがんだり、体を曲げたり、床に座ったり這い回ったりを、先生も子どもたちと同じようにやることをお勧めします。こうすることで子どもたちは先生にもっとなついてきます。

Songs

FAB Red に付いている **The Song Tape** には、このコースで学ぶ言葉のほとんどが収められています。幼い子どもたちはリズムカルな音楽やメロディーが大好きです。それに合わせて何かのもの真似をしたり、アクティビティーをしたりするのはです。子どもたちは歌や韻を楽しんで聞き、すぐに自分で歌うようになり、歌の英語を理解するようになります。

テープの歌は **FAB** のために作られたオリジナルなもので、覚えなければならない言葉を練習するようになっています。テープはまず、はじめから終わりまで全部歌います。次に同じ歌で、覚えなければならない言葉の部分だけをブランクにしたものがテープに入っています。このブランク部分を子どもたちが歌います。子どもたちが歌を全部覚えたら、このブランクつきの歌が教室ではよく使われます。最後に歌はカラオケバージョンに入っています。ほとんどの歌の歌詞は他の言葉に換えても歌えるようにつくられています。

各レッスンは **Hello** の歌からはじまり、**Good-bye** の歌で終わります。そしてテキスト学習の前後に歌が二曲あります。このやり方を守るのはとても大事なことです。子どもたちに

今レッスンのどのへんをやっているのかわからせるためだからです。

歌のところでは、**FAB Playing Cards**を使うと効果的です。子どもたちがよく見えるように高く掲げるか、床かテーブルの上において子どもたちがタッチできるようにします。

歌をうたうところではなくても、アクティビティーをする間 **BGM** として音楽をかけてもいいでしょう。**BGM** はゲームやアクティビティーをやっているとき子どもたちを落ち着かせるには最適です。でもテキスト学習の時にはやめましょう。曲を変えたり、音楽をかけた後止めたりするのは、つぎのアクティビティーを始めるよ、という子どもたちへの合図になります。

歌に出てくる言葉は覚えやすいので、できるだけ活用すべきです。幼い子どもたちは単純なメロディーが大好きですから、楽しんでさえいれば早く効率よく覚えます。歌には目に見えない大きな力があり、子どもたちを意欲的に学ばせます。それぞれの歌のアイディアは下記の通りです。

Hello – 先生は子どもたちに手を振るか、あるいはその後歌をうたいながらテーブルをぐるりと周りながら一人ずつと握手をしてもいいでしょう。子どもたち同士でも握手するようにしむけますが、握手をするのは隣の子どもだけにしましょう。この歌には、先生と生徒間で質問をして答えるというアクティビティーの大事な要素が含まれています。

Put on your T-shirt – 子どもたちが歌の指示に従って、服などを着たり脱いだりをジェスチャーでやります。

What's that? – 歌の中の単語を大きい声で復唱しながら、子どもたちはまるでそれを実際に持っているか使っているようなふりをします。

What do you want to do now? – 歌に合わせて子どもたちは実際にやっているように演じます。

Where's the bag? – 教室用具などがどこにあるのか聞かれて答えるインタラクティブな歌です。

Look at the red card – 色のフラッシュカードを広げて、歌の指示通りに色を見て、指をさします。

Musical statues – *What do you want to do now?* の変形ですが、**Quickly** と **Slowly** が一緒に使われています。

Why don't we play? – 子どもたちは耳をすまして歌をよく聞いて、歌に出てくるおもちゃで遊ぶジェスチャーをしながら教室の中を動きまわります。

Let's count – 歌に合わせて子どもたちに **10** から **20** まで歌わせてください。

How many? – 子どもたちは座ってテキストを開き、歌の通りに正しいページを開いて歌の

指示した物を数えます。

Good bye—歌っている間、子どもたちにバイバイと手を振ります。

歌詞はこの指導書の巻末の **FAB Yellow Song Tape** に掲載してあります。をご覧ください。
授業前にテープを聞き歌詞を読んで、テープスクリプトの単語をチェックしておいてください。

Materials

Student's Playing Cards Pack

このコースで学ぶ 30 の単語が **Student's Playing Cards Pack** になっています。一つの単語が 2 枚ずつ入っていて、他に 10 枚のカラーカードが加わり合計 70 枚です。

Clothes – T-shirt, skirt, dress, socks, shoes, jacket, hat, shirt, shorts.

Household nouns – knife, fork, spoon, plate, glass, cup, T.V, radio, video.

Toys – train, boat, car, balloon, kite, plane, bat, box, bicycle

Color words – red, yellow, blue, green, pick, orange, black, white, purple, brown.

Prepositions – In, on, under

Photocopiables

この指導書の巻末に印刷しコピーをとって使える素材が掲載してあります。

Number Playing Cards – コピーをとって厚紙にはって子どもたちが使えるように切り離して 1 セット作っておきます。

Yes/No cards – **Yes/no stations** のアクティビティーで使います。

End of Course Certificate – このテキストの最後のユニットが終了したら、子どもたち全員がもらいます。コピーをとって、子どもの名前を大きくカラフルに書いてください。

Teacher/Student Name Badges と **Teacher/Student Age Badge** – これはレッスンには含まれていませんが、**FAB Red** で使いましたのでまた使ってもいいでしょう。特に新入生がいる場合にはあった方がいいでしょう。巻末にあるバッジを、コピーして形どおりに切りとって厚紙に貼りつけ、厚紙の裏に安全ピンをセロテープでとめて使います。子どもたちの名前と年齢をカラフルに大きく書きます。もし作ったら、毎週つけるようにしたらいいでしょう。

Student's Playing Cards Activities

Playing Cards をうまく使うと色々なおもしろいアクティビティーができます。

What is it?

FAB Playing Card を見せて **What is it?** と聞いて答えさせます (まず全員に、その後一人一

人に)。子どもたちからちゃんと見えるようにしてください。カードを変えて繰り返します。このアクティビティーは、立ってでも床に座ってでもテーブルに着席してでもできます。

Moving the Card

What is it? の変形ですが、ある程度のスペースが必要です。子どもたちにカードを反対に向けて、*What is it?*と聞きます。子どもたちはカードに何が描いてあるのかのぞきこもうとします。先生は見せまいとしてカードを持ったまま教室の端から端まで逃げ回り、子どもたちは先生の後を追いかけます。子どもたちはおもしろがって大喜びをします。

Partial Card

手か紙で **FAB Playing Card** を覆ってから、手や紙を少しずつずらしながら見せていき、*What is it?*と聞きます。

Hunt the Playing Card

授業の前か、あるいは授業中の適当な時に、**FAB Playing Cards** を教室のあちこちに、例えば床に置いたり、テーブルの下に置いたり、壁にはりつけたりしておきます。子どもたちを座らせて、もう1枚の **dog** のカードを見せながら *Give me a dog* といいます。立ちあがってあちこち探し、**dog** のカードを見つけるまでをやってみせます。

このゲームは、競争することもできます。一番多くのカードをとった子どもが勝ちで、シールかお菓子か拍手のご褒美をあげましょう。

Guess the Card

FAB Playing Cards の **food** でも **animals** でもいいですから、子どもたちにカードを手で扇状に広げて見せます。そのうちの一枚をそうっと抜いて、背中に隠すか胸に押しつけて、*What is it?*と聞きます。何のカードか子どもたちに当てさせましょう。一番初めに当てた子どもがそのカードをもらいます。このアクティビティーも競争することができます。アクティビティーの延長として、カードを扇状に広げて”秘密”のカード一枚を選ばせてもいいでしょう。

Slap

FAB Playing Cards を床かテーブルの上に広げておきます。先生が言うカードを子どもたちはさわるかタッチします。タッチする時に、子どもに何のカードが英語で言わせます。フライングを防ぐために、先生が何のカードが言うまで、子どもたちは両手を頭の上ののせるか鼻か耳をさわっていなければなりません。

Look at..../Point at....

*Slap*によく似ていますが、実際にタッチするのではなく、命令形の *Look at* と *Point at* を学びます。

FAB Playing Cards 同様他のカードでも、同数程度の語彙数をカバーしていれば使ってもいいでしょう。

Activity Games

下記のゲームでは子どもたちが教室の中を動き回ります。

Actions

Swim, fly, dance などといいながらやって見せます。*Stop!* といっておおげさにピタッとアクションを止めます。次に同じアクションをするか、別のアクションの指令を出します。このテキストで習うアクションには、*Ski, Fly, Swim, Dance, Sing* があり、FAB Red で学んだ *Run, Jump, Hop, Skip, Walk, Go to sleep, Wake up* があります。また、指示を出す時には、*Quickly* と *Slowly* も使いましょう。やって見せる時には、アクションはおおげさにします。

Musical Statues

これは *Actions Game* の変形です。にぎやかで楽しい音楽をかけて、アクションやパントマイムをやります。突然 *Stop!* といって音楽を止めます。次の指令を出して再び音楽をかけます。

Dice Actions

ホワイトホワイトボードに6つの動詞を書いて番号をつけます。大きくてやわらかい素材でできたサイコロがこのアクティビティーには最適なのですが、子どもたちは順番にサイコロを床かテーブルの上に投げて出た数を大声でいいます。そしてその数と同じ番号のアクションをするのです。順番に子どもたちに投げさせて、。。。。。。出た数を言わせませす。終わったアクションとその番号は消していきます。

Numbers Jump/Hop

子どもたちの前に立ち、大きな声で数えながら、ちょっとオーバーに手を3つたたきます。*How many?* と聞いて、わからなければ *Three* だとヒントを出します。それから、大きな声で数えながら3回とびあがって見せます。これを今までに学習した数でやります。サイコロや *number cards* で数を決めるのもいいでしょう。子どもたちができるようになったら、先生と代わって指示を出させましょう。

Yes/No Stations

Yes と No のカードを、Yes はうなずきながら No は首をふりながら見せます。カードをそれぞれ教室の両端に置きます。子どもたちは真ん中に立ちます。playing card の[hat]を見せながら、*It's a [hat]*とといいます。Yes のカードに走って行って、*Yes, it's a [hat]*とといいます。教室の真ん中に戻り、また同じカードを見せて今度は *It's a T-shirt* とといいます。そして No のカードに走っていきます。

Basketball

まず、おもちゃの食べ物を小さい箱かテーブルの中、上、下に置きます。そのたびに子どもたちに、それがどこにあるか言わせます。その後箱をテーブルの上に置いて、子どもたちに箱をめがけておもちゃを投げさせます。どこに落ちたか *Where's the [food]?*と子どもたちに聞きます。もっと競争心をあおるなら、箱の中に入ったら 2 ポイント、テーブルの上に落ちたら 1 ポイント、床に落ちたら 0 ポイントにします。

Whiteboard Relay

クラスを 2 チームに分けて、それぞれにマーカーペンをわたします。ホワイトボードの前に立たせ、*Draw [number][...s]. Go!*と言います。先生が言った通りの物をホワイトボードに描く競争です。早く描き終わったほうが勝ちです。描いたら、*How many [...s] are they?*と聞いて、子どもたちから *There are [number]*という答えを引き出してください。絵を描くのに手間取る子どもがいるかもしれません。こういう場合は 2 チームの力が同等になるようにバランスをとる配慮をしてください。

Stand up/Sit down

FAB Red を学んだ子どもたちにとっては聞きなれている指示です。FAB Yellow のアクティビティーとしては組み込まれていませんが、先生はすでに着席している子どもたちをいったん立たせて(ジュエスチャーで立つようにしむけます)*Sit down please*と言わなければならない時があります。*Sit down*という指示に対して、立ち上がる子どもが必ず一人や 2 人はいるものです。

Touch

Touch the window/door/chair といいながら教室の中を動き回ります。目的の物にタッチして、大きい声で (*Window*) と言ってみせます。変形として、子どもにタッチするようになればクラスメートの名前を覚えるでしょうし、特定の色でもいいですし、*Touch the (red) (book)*というふうにしてもいいでしょう。

Put on..../Take off....

パントマイムです。先生が言う通りに、服などを着たり脱いだりします。*Put on your T-shirt* という歌（blankのあるバージョン）を聞きながらやってもいいでしょう。

Other activities

Here you are./Thank you.

人形でもボールでも FAB Playing Card でも何でもいいですから、教室にある物をすぐそばの子どもに差し出して、*Here you are* といいます。*Thank you* と小声で教えて、そう言わせてください。もっと徹底して教えるには、おもちゃか人形を教室に持って行って、何か物を人から人に渡す時、あげる人は *Here you are* といい、もらう人は *Thank you* といふのだと教えてください。子どもたちがまず先生と物をやりとりして、ちゃんと言えるようになったら、まず子どもの一人に隣の子どもに物を渡して言わせます。もらった子どもは次の子どもへと続けます。必要なら先生が助けてあげてください。

変形として、人形やボールや FAB Playing Cardなどを床に置いて、*Give me the (ice-cream)* と言って、それを指差します。子どもたちが先生に差し出す時に、*Here you are* といいます。そして先生は *Thank you* と言って受け取ります。

What's your name? / How old are you? chain

子どもたちを座らせ、一番近くにいる子どもに *What's your name?* と聞きます。その子が答えたら、そのすぐ隣の子に *What's your name?* と聞くようにジェスチャーで仕向けます。次々に質問し答えて、クラスを一巡するまで続けます。*What's your name?* に十分慣れたら、今度は *How old are you?* も加えてください。お互いによく分かるように name/age バッジをつけるといいでしょう。

Counting

教室にある色々なものでも FAB Playing Cards でもいいのですが、床かテーブルの上か箱の中に一つずつ数えながら置いていきます。子どもたちにも一緒に数えさせてください。変形として、大声で数えたり、小さい声で数えたり (*Whispers* を参照)、ゆっくり数えたりはやく数えたりします。

Whispers

床に子どもたちと小さくかたまって座ります。まず、*playing card* を見せて極端な小声で *It's a [...]* とささやきます。子どもたちも小声で復唱します。次に子どもたち一人ずつに *What is it?* とやはり小声で聞いて小声で答えさせます。大声で聞いて大声で答えるというのを無作為に混ぜてもいいでしょう。

Partial Drawing

ホワイトボードに何か子どもたち皆がよく分かる物をゆっくり描いていきながら、*What is it?* と聞きます。子どもたちが正確に答えたら、絵を消して次の絵を描きます。描く物を複数にして *How many [...] are there?* と聞いてもいいでしょう。

Optional Activities

次に先生に時間がある時にやっていただきたいアクティビティーを紹介します。何か楽しいものを作るアクティビティー、カードを使うアクティビティー、大きいクラスにふさわしいアクティビティー、そしてその他に随意に選べるアクティビティーの数々です。

この中のアクティビティーには、教材道具や材料の準備に必要なものもありますが、さらにもっと進んだ英語の練習に様々な方法で取り組む機会を子どもたちに与えることができます。

Creative Activities

Balloons

風船とマーカーペンを用意して、風船に口、鼻、耳、目を描きます。風船を膨らませ、空気が抜けないように口をしぼります。今まで習った色、*Here you are, Thank you, Give me,* という会話、そして英語で言える体の部分の名前などを導入することができます。

Flying Objects

何でもいいですから、**FAB Yellow** のテキストに出ている物の切り抜きを作り、子どもたちにそれぞれ一つずつ色を塗らせます。テーブルや床の上で、切り抜きを息で飛ばして見せます。子どもたちにもさせてください。飛ばす競争をしてもいいでしょう。ある地点まで、たとえば窓までと決めておいて、そこまで一番早く飛ばした子どもが勝ちです。

Collage

テキストの適当なページを利用して、コラージュをして楽しむことができます。海岸場面を使うのなら砂を、庭や遊び場の場面なら草や葉っぱを糊で貼りつけます。また動物や食べ物などの形を切り取ったものを貼りつけてもいいでしょう。子どもたちがトレースして色を塗ったものを先生が切り取るのがいいと思います。

コラージュには、テキストもテキストをコピーしたものも使えます。出来あがったら、教室の壁に飾ってみたいかがでしょう。散らかるかもしれません。なにしろ子どもたちが糊を使うのですから。

Tracing Pictures

テキストの好きなページを選んで、ごく薄い紙を置きます。まず先生がやって見せましょう。子どもたちにそのページに描かれている何か好きなものを薄紙に写し取って、色を塗らせてください。この絵はテキストにテープで貼りつけてもいいし、作品には子どもの名前を書いて教室の壁に貼ってもいいでしょう。このアクティビティーは、テキスト学習の際、早く終える子どもたちも遅い子どもたちもいますから、進み具合を調整するのに大変役立ちます。遅い子どもを待っている間、早く終えた子どもにこのアクティビティーをさせます。

Card Activities

Pelminism

床かテーブルの上に、**FAB Playing Cards** を伏せてバラバラに並べます。

子どもたちは順番に 2 枚ずつめくります。この際 2 枚が同じカードだったら、カードは自分のものになり、もう一度めくれます。2 枚同じカードをめくって、次にめくったカードが同じではなかった場合、その子はその 2 枚の何のカードか言わなければなりません。カードが最後の 4 枚になったら、先生はカードの位置を毎回変えるようにします。

このアクティビティーの変形として *Lightening Pelminism* があります。めくった 2 枚のカードが同じではなかった場合、そのカードは伏せないで上を向けたままにしておくやり方があります。このやり方には時間がかかりません。

なお、子どもたちが順番をきちんと守って 2 枚ずつめくるというルールを守らせるのが難しい場合、自分の番ではない子どもたちは両手を後ろに組むか頭にのせるかして、他の子の順番の時にめくってしまわないようにしましょう。名前を呼んで順番を知らせるのがいいでしょう。

Playing Card Race Game

2 枚組みのカードではなくそれぞれが違う 15 枚以上の **FAB Playing Cards** を床に半円状に並べます。子どもたちは、左側に立ちます。順番にサイコロをふります。その子は自分のサイコロの数だけ進んでそのカードのところに立ちます。その時、何のカードか皆に大声で言わなければなりません。

順番にサイコロをふって行って、子どもたちは右へどんどん移動していきます。一番右のカードまでの数と同じ数をサイコロで出して、一番先に右端のカードに到着した子どもが勝ちです。

Large Group Activities

Playing Card Lines

子どもたちを縦 2 列に座られます。向き合った相手とペアになります。ペアになった子どもも 2 人ずつに、同じ **FAB Playing Card** か番号を与えます。先生がどのカードか言います。

そのカードを持ったペアの子どもたちは、立ちあがって自分の列の周りを時計と同じ回り方で、ぐるりと回らなければなりません。早く自分の元の場所に戻ったほうが勝ちです。どちらの列が勝つかホワイトボードにスコアをつけましょう。

Color Tails

色々な色のリボンを用意します。リボンの端を腰のベルトのうしろに挟んでしっぽのようにならせます。カウントダウンをして、子どもたちは追いかけてごっこをして、友達のしっぽを取りっこして、しっぽを集めます。全員のしっぽが取られてしまったら、あるいは前もってセットしておいた時間がきたら、子どもたちが集めたしっぽを数えます。一番多くしっぽを取った子どもが勝ちです。

Whistle

ビーッ、ビーッと笛を長く2回吹きます。子どもたちは二人一組のペアになります。ペアになったら座ります。もし一人残ったら、先生とペアになります。今度は笛を3回吹きます。子どもたちは3人一組になります。こうして10まで続けます。子どもたちがこのアクティビティーに慣れたら、笛を吹くより数を口で言うか、子どもたちに大声で数えさせながら、先生は手をたたくといいでしょう。先生が手をたたくのを止めた時の数が、子どもたちがグループを作る人数になります。

Other Activities

Guess the Object

鉛筆やボールなどの本物か、プラスチックの果物を袋に入れて、子どもたちに ***What is it?*** と聞きます。子どもたちにそれを手で触って何か当てさせます。中を見てはいけません。もし本物の果物を使うのでしたら、くれぐれもご注意ください

Pass the Parcel

小さいお菓子を新聞紙を何枚も何枚も重ねて大きく包装しておきます。音楽がなっている間、子どもたちはこの包みを ***Here you are*** といいながら隣に渡し、受け取った子どもは ***Thank you*** といいます。こうして次々に渡して行きます。音楽がとまったら、その時に包みを持っている子どもが開けます。子どもたち全員にお菓子がいきとどくようご注意ください。

What does FAB Yellow teach?

FAB Yellow コースでは、40の単語を教えます。

Clothes – T-shirt, shirt, dress, skirt, shorts, jacket, hat, socks, shoes

Household nouns – knife, fork, spoon, plate, glass, cup, T.V, radio, video.

Toys – bat, boat, box, kite, balloon, bicycle, car, plane, train.

Numbers – 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20

Prepositions – in, on, under

これに加えて、次の 10 色の英語の呼び方も繰り返し出てきます。— red, yellow, blue, green, pink, orange, black, white, purple, brown

FAB Red コースでは、始めのあいさつと終りのあいさつをきちんとすること、それに加えて次の 7 つの質問に答えることを学びます。

What's your name?

How old are you?

What color is it?

What is it?

How many (noun)s are there?

Where is the (noun)?

Finished?

また、子どもたちは次の指示の通りにすることを学びます。

Come in.

Swim, Ski, fly, Dance, Sing.

Stand up, Sit down, Come here.

Put on, Take off.

Slowly, Quickly.

Give me.

Draw, Trace.

Look at, Point at.

Here you are.

Thank you.

See you soon.

授業に必要上、先生が言う教室用語は次の通りです。先生が教室で使うのは次のリストにある語句のみにできるだけ制限してください。

Let's play a game/Let's sing a song.

Ready.....Go!

Get out your books and colored pencils.

Open/Close your eyes.

Put away your books and colored pencils.

Open your books/Close your books.

Get out your (color) pencil/Color the (noun) (color).

Good boy/Good girl / Very good.

Yes / No / Be quiet.

It's time to say good-bye.

子どもたちは、先生の教室用語を繰り返し長期に渡って聞くことによって、まだ習っていないなくても、それが何を意味するのかが必然的に分かるようになり、やがてははっきりと理解でき、最後にはちゃんと対応できるようになります。完。